

自分たちでつくる学びの場

—つながろう！南関東ブロック(日本語教育学会「子どものための日本語教育研修」2020)—

発表者氏名 (横浜市立鶴見小学校) 横溝 亮

1. 活動の概要

1.1. 活動の背景

本実践は、2020年公益社団法人日本語教育学会が、文化庁「日本語教育人材の研修事業」を受諾し行った「子どもの日本語教育研修」終了後に立ち上がった交流の場である。「子どものための日本語教育研修」は、全国4つの地域で実施され、「外国人児童生徒等に対する日本語教師初任研修(以下、初任)」、「研修担当講師の育成研修(以下、チューター)」の二つのコースの研修が行われた。「子ども初任コース」は、『文化審議会国語分科会(2019)「児童生徒に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力」及び「研修における教育内容」に基づき基礎的な内容』の研修が実施された。一方、「講師育成コース」は、『文化審議会国語分科会(2019)に示される「日本語教育コーディネーター／主任教員」の資質・能力に準じて、児童生徒対象の日本語教育に携わる初任教師の研修を企画し、講師として研修を運営できる人材の育成』を目的として研修が実施された。本実践は「南関東ブロック」地域の参加者が中心となり、さらに専門性を高めること、日常的に実践の共有や日々の課題などの情報交換を行うことを目的に活動を行っている。

1.2. 活動への参加者

現在はチャットツール【Slack】を日常的な情報交換の場として使っており、Slackの登録は、初任(36名)、チューター(10名)、「子どもの日本語教育研修」講師の55名である。子どもへの日本語指導の立場は、学校教員、日本語教師、地域活動者、大学教員等さまざまである。

1.3. 主な活動

本実践の主な活動は以下のとおりである。

	日常的な情報交換	定期的な情報交換
実施方法	チャットツール(Slack)の活用	Web会議システム(Zoom)の活用
開催	常時活動	2カ月に一度開催
内容	複数のチャンネルを設定し、 日常的に情報共有 【チャンネルの項目】 ・お知らせ(研究会等案内) ・各回情報交換会 ・初期日本語指導の実践 ・教科につながる指導の実践	5月「地域別情報交換会」 7月「現場別情報交換会」 9月「引き出しを増やすための実践共有」 11月「特別支援教育勉強会」 1月「九州ブロックとの合同情報交換会」 3月「内容未定」 ※3月情報交換会は、2月末現在検討中

2. 情報交換会について

今年度、5回の情報交換会を行った(※内容は1.3主な活動を参照)。情報交換会の内容は情報交換会担当(チューター複数名が持ち回り)で内容を決め運営を行った。情報交換の内容が決定されると、当日の運営には担当以外のチューターも関わりながら当日の情報交換会を進めた。どの会も充実した内容となっており、多くの参加者から「様々な立場の方々との情報交換はとても良かった」、「指導の具体的な方法を知ることができた。」などのふり返りが提出されている。

2.1 情報交換会の具体的な内容と参加者の反応（抜粋）

情報交換会の内容	参加者の反応（一部修正あり）
<p>5月「地域別情報交換会」（参加者 21名）</p> <p>【設定された地域グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京・埼玉・千葉（校種関係なし） ・神奈川小中学校 ・神奈川中学校・高校 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の悩みが自分だけではないことがわかり、みなさんと共有できたのが有意義だった。 ・同じ地域の方もいて、具体的な情報交換ができた。地域の研修以外での受け皿となる場所や人がいないので、このような意見交換は貴重だと感じた。
<p>1月「他地域合同情報交換会（参加者 33名）</p> <p>（「子どものための日本語教育研修」九州ブロックとの合同研修会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国につながる子どもへの指導について（横浜市内小学校の実践報告） ・情報交換会（南関東・九州参加者が混ざるようにグループを作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の学校の具体的な取組を知ることができ、大変参考になった。 ・多文化が自然な学校づくりには、学校全体の理解が必要だということがわかった。 ・情報交換で集住地域の貴重な話を聞くことができた。自分の地域ではまだまだ足りない部分があるので、実現できるように取り組みたい。

3. 成果と今後の展望

情報交換会には、毎回30名弱の参加者があり、年間通して充実した活動を行うことができた。年間ふりかえりアンケートでは「次年度も情報交換会を継続してほしい」旨のコメントが多数寄せられている。

3.1 活動の成果

- ・運営を行ったチューターは「子どものための日本語教育研修」で子どもの日本語教育についての研修の計画の立て方や運営について学んだ。本実践を運営することで、自身の専門性を生かしながら、研修で学んだ「子どものための日本語教育研修」を実践することができた。
- ・各情報交換会に多くの参加者が参加し、年間を通してより良い情報交換を行うことができた。本実践は教員、日本語指導員、地域等で子どもの日本語教育に関わる方々が参加しており、様々な視点で情報交換を深めることができた。
- ・多くの研修は、1年で参加者の入れ替えがある。本実践は、参加者が限定的なため、今年度の情報交換会を基礎に、次年度の情報交換会の内容を組み立てることができ、子どもの日本語教育について、より専門性を高めることができると考える。
- ・今年度の情報交換会はすべてオンラインで実施された。関東圏からの参加者ではあるが、様々な地域から参加していることを考えると、オンラインでの実施はとても有効であった。

3.2 今後の展望

- ・今年度は、テーマを設けての情報交換会が中心であった。子どもの日本語教育の情報を得る場は全国的に少ない状況にある。そういったことを考えると、テーマを設けず、日々の悩みや課題を自由に情報交換ができる場を設定することも必要だと考える。
- ・対面での情報交換会が可能時は、さらに連携を広げるためにもオンラインと対面を組み合わせながら情報交換を行っていききたい。
- ・次年度の情報交換会を実施するにあたり、「元初任コース受講者」を巻き込みながら、人材育成を視野に入れた活動を行っていききたい。

【参考資料】文化庁「令和2年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業」

https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/jinzainokenshu_boshu/92398002.html